

研究主題

ICTを活用した個々の学びと協働的な学びの充実をめざして

1 主題設定の理由

中学部には、本校が対象とする病弱（情緒含む）、肢体不自由、聴覚障がい、知的障がいの4障がいすべての障がい種の生徒が在籍している。さらに、学習グループや各学級の中でも実態は様々で、個々に抱える課題や必要な支援、指導の方法も異なる。

GIGAスクール構想の一環として、一人1台のiPadと電子黒板が配置され、生徒たちはiPadを活用した学習に興味をもって取り組む様子がみられる。また、指導の際の視覚的な支援や情報共有、情報保障も容易になり、学部内でも情報機器の活用が進みつつある。更に、集団での学習が難しい状況にある生徒に対しては、iPadや電子会議システム等を活用することで学習内容を共有し、仲間と意見を交換したり、同じ活動をしたりすることができた。

そこで、ICTを活用することで、様々な実態の生徒たちが個々の力を伸ばし、且つ仲間と協働し、より深い学びを得ることができると考えこの主題を設定した。

2 推進計画

2年次目の研究推進計画（経過）について示す。

月 日	研究活動	内 容
4月20日	第1回全校研究会	
5月17日	中学部研究会①	1年次目の取り組みの確認、研究方針や内容の検討
6月20日	中学部研究会② グループ研究	研究授業実践者、内容等話し合い
7月4日	中学部研究会③ グループ研究	グループ毎に開催
9月5日	中学部研究会④ グループ研究	指導案検討
10月16日	研究授業①	国語「生き物図鑑を作ろう」 授業者:細川 歩美
10月25日	中学部研究会⑤ 授業研究会①	研究協議「ICTを活用した個々の学びについて」
11月17日	研究授業②	自立活動「ナビゲーションブックを作ろう！」 授業者:田村 絵美
11月24日	研究授業③ 授業研究会②	生活単元学習「思い出のアルバムを作ろう」 授業者:佐藤 暉
12月12日	中学部研究会⑥ 授業研究会③	研究協議 「ICTを活用した個々の学びと協働的な学びの充実を目指して」 「思考を共有するツールの使用について」
12月26日	学部研修会	特別支援学校におけるICT活用について
1月25日	中学部研究会⑦	全校研究会に向けて 発表内容検討・確認
2月20日	第2回全校研究会	全校研究まとめ

3 本校舎中学部における、めざす「豊かな学び」の姿

中学部には、様々な実態の生徒が在籍しており、個々に抱える課題、必要な支援、指導方法が異なる。しかし、目指す姿としては、学部目標に掲げる通りの姿を目指す。特に次の2つの姿を目指すこととした。

(1) 自分の良さを知り、目標に向かって取り組む姿

→自分について知ろうとし、伝えようとする姿。

(2) 思いやりの気持ちを持ち、仲間と協力して取り組む姿

→仲間のことを意識し、声を掛けようとする姿。

4 1年次目の研究概要

研究方法：ICTを活用した学習活動の事例を紹介し合い、OJT形式での事例研究。

(1) 「それICTでやってみませんかBOX」設置

(2) ICT機器を使った実践の紹介

①事例紹介（延べ15例）

校内研究シートとプレゼン資料を用意し、中学部内でのICT機器使用実践例をグループ研究会で紹介した。

②研究会シートの記入

中学部研究会で紹介した事例について研究会に参加した先生方から意見を募った。

R4 中学部研究
「それ ICT でやってみませんか」
お名前 ()
書ける範囲でかまいませんので教えてください
対象の生徒
年 組 名前
ICTを活用したい授業・場面
曜日 時間目の
その他…
使いたいICT機器・アプリ
伸ばしたい生徒の力、支援したい生徒の活動 など (自指すもの)
いつ おじゃましてよろしいですか?
あらかじめ 研究部に伝えておきたいこと など (自由記述)

【図1 アンケート用紙】

R4 校内研究シート (中学部)	
担当者	佐藤謙成
対象生徒	ICT・2 全員
活動場面	お楽しみ会
生徒にこんな風になってもらいたい 自分たちで考えたお楽しみ会の出し物を実現したい! (中継先からクイズを出す)	
生徒の実態 (ICTを使うにあたって活用できそうな力、現在の課題 など) 生徒自身が中継を行うため、直接 ICT 機器の操作を行うわけではないが、中継する人とのやり取りや交渉を自分たちで行う必要があった。自発的にコミュニケーションを取ってやりとりや交渉を行うことは難しいが、あらかじめ話す内容等を決め、原稿を準備すると取り組むことができる。	
実践した授業・学習活動 使用した ICT 機器 (iPad: Teams・DropTalk、Bluetooth スピーカー、電子黒板、PowerPoint、フィンガープレゼンター) Teams を使って中継先と体育館を繋ぎ、「じゃじゃじゃ TV」を模して中継先にまつわる人物からクイズを出題。体育館にいる生徒に答えてもらった。	
評価 *「生徒にこんな風になってもらいたい」は叶えられましたか? 叶えられた。出し物を可能な限り生徒の力で進めることができた。中継だけでなく、司会進行も iPad のドロップトークを活用して取り組んだ。 *生徒の様子に変化は見られましたか 自分たちで決めた出し物の実現に向け、出演交渉を行ったり、問題フリップや解答フリップを作ったり、中継の練習をしたり、前向きに準備に取り組む姿が見られた。	
その他 (上記以外の成果や今後の課題など もしあれば)	

【図2 校内研究シート】

第 〇 〇 〇 回目 研究会 月 日 ()	
R4 研究会シート 名前 ()	
1. 授業・学習活動	
日時	10月~
担当者	小野寺貴子
対象生徒	3C1・2
活動場面	朝の会
2. 指導者による評価	
実践した授業・学習活動 使用した ICT 機器 (iPad アプリ: DropNews)	
評価 *「生徒にこんな風になってもらいたい」は叶えられましたか? *生徒の様子に変化は見られましたか?	
3. ご意見ください	
よかった点	
参考になった点	
私なら こう活用したい	

【図3 研究会シート】

<成果と課題>

- 学部全体でICT活用の実践事例を共有することができた。
- 生徒の力を引き出すことができた事例も多かった。
- ICT機器の活用をもっと多くのケースで広めていきたい。

学部全体でICT機器を使用した実践を共有することができ、事例をもとにICT機器を導入するケースもあった。発声難しい生徒が音声で発表したり、手話とプレゼン操作を同時に行ったりと、生徒がもっている力を発揮するための支援をICTの活用を通じて行うことができた。来年度以降さらにICT活用を広げていきたい。

5 2年次目の研究実践

(1) 研究方針

昨年度の課題である「ICT機器の活用をもっと多くのケースで広めていきたい」を受けて、今年度は各々が受け持つ授業においてICTの活用を進めていくことともに、教育課程を基に実態に応じて3つのグループに分け、ICT機器の活用の仕方を検討、実践する。

授業実践シートでは現在の様子から、ICT機器の活用の手立てを考え評価し、次の実践へつなげることができるようにした。

また、それぞれの活用の様子を見合うことで、さらに一人一人の豊かな学びの充実を目指すことにした。

（２）授業実践シートの活用

「生徒の実態」「困難を生じる背景」「支援の方向性」「ICT機器等活用の手立て」を記入することで、「ICTの活用」を目的化するのではなく、授業において生徒の課題に対する学習の「手段」とできるようにICT授業実践シートを作成、活用することとした。また、授業でどんな場面でどのようにICTを活用するか考えるため、「学びのイノベーション事業」実践研究報告書から「学校におけるICT活用場面」を参考とした。

実践内容		
日 時 令和5年 月 日 ()		
対 象		
指導者		
1 単元名 (教科によっては題材名)		
2 単元の目標		
3 単元計画 (全 時間)		
時	学習活動	指導上の留意点
4 本時の指導		
(1) 本時の目標		
(2) 評価の観点		
(4) 活用する ICT 機器等		
【タブレット PC、ノート PC、デジタル教科書、電子黒板、大型テレビ、動画コンテンツ、授業支援ソフト、プレゼンテーションソフト、プロジェクター、書面カメラ、ドリル教材、等々】記入		
(5) 学習場面での ICT の活用の仕方		
【個別のドリル学習、試行錯誤する、写真撮影する、念入りにみる (拡大する)、録音・録画と再視聴、調べる、分析する、考える、見せる、共有・協働する、等々、ICT を使ってできること】と【ICT を活用することで学習としてどのような成果を期待できるか】を記入		

【図 4 実践内容シート】

ICT 授業実践シート			
中学部研究部			
実態	困難を生じる背景	支援の方向性	ICT 機器等活用の手立て
○困難な面			
○得意な面			
実践内容	別紙資料		
評価			
○成果			
▲課題			
●改善点			
今後に生かせそうな学習			

【図 5 ICT 授業実践シート】

A 一斉学習	B 個別学習		C 協働学習	
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、生徒たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>		<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>	
A1 教員による教材の提示	B1 個に応じる学習	B2 調査活動	C1 発表や話し合い	C2 協働での意見整理
<p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
B3 思考を深める学習	B4 表現・制作	B5 家庭学習	C3 協働制作	C4 学校の壁を越えた学習
<p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

※「学びのイノベーション事業」実践研究報告書(平成26年)より

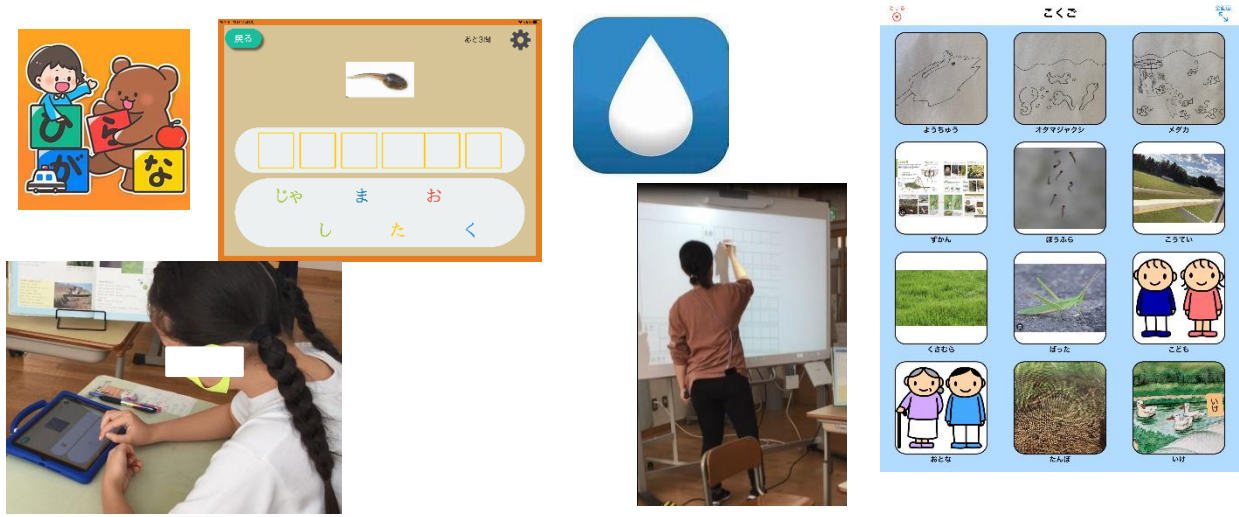
【図 6 学校における ICT を活用した学習場面】

(3) 研究授業・授業研究会

研究授業 10月16日(月)2校時 国語「いきものずかんを作ろう」
 授業研究会 10月25日(水)15:50～ 中学部学習室①

*使用したICT機器

iPad(アプリ:「ひらがなめっちゃわかるもん」「ドロップタップ」)、電子黒板、実物投影機



*本時におけるICT機器を使用した学習場面

- A一斉学習
 - 教員による教材の提示
- B個別学習
 - 個に応じる学習
 - 思考を深める学習
 - 表現・制作



*学習場面でのICT活用の仕方

- ・未習得の語句の表記を自ら調べ、ドロップトークに登録し、繰り返し使用することで語彙の拡充を図る。
- ・電子黒板を活用し写真を拡大したりそれらに語句を書き込んだりする活動を通し、生き物の特徴についての思考を深め言葉に結び付ける。
- ・アプリを使ってひらがなの並び替え問題を繰り返し行うことで、生き物に関する語句の表記について定着を図る。

*本時の目標

- ・今まで育てた生き物の特徴の中で、特に伝えたいことを考え、絵や言葉、簡単な文で表現する。
- ・表記の分からない語句を自ら絵辞典やタブレットで調べたり、ドロップタップに登録したりすることができる。
- ・平仮名の止めはね、書く欄を意識して文字を書くことができる。

*成果と課題(○成果▲課題*改善点)

- アプリを繰り返し使用することで語句の表記を覚えることができるようになってきている。ICT機器(ipad)を自宅に持ち帰り宿題として取り組むことでさらに表記を覚えることができた。
- ドロップタップに様々な語句を登録することで、必要な時に表記と写真又はイラストをすぐに提示することができ、スムーズに学習を進めることができた。
- ドロップタップへ語句を登録する方法が定着し、表記が分からなかった言葉を意欲的に登録しようとする様子が見られた。
- 実物投影機を使用し、注目してほしい箇所を拡大して投影することで、投影されたワークシートと自分のワークシートを見比べ、書く欄や字形を確認する様子が見られた。
- ▲表記が分からない単語がドロップタップに登録してあるにも関わらず、ドロップタップを手掛かりにせず、分からないと繰り返すことがあった。
- ▲常にiPadを持ち歩いているわけではないので、休み時間や移動教室等でiPadが手元にない場合、表記を忘れた語句をすぐに調べることができない。

▲聴覚障がいのある生徒にとって書記日本語の語彙を増やすためには、繰り返し使用すること、多く目にする必要がある。ICT機器を使用した場合、常に生徒が目にして使用できる環境を設定しづらい。
→*アプリに登録した語句を印刷して教室内に貼る、ファイリングするなどしてiPadが手元になくても分からない語句をすぐに調べられる環境を作ったりすぐ調べたりする習慣をつけるなどの方法が考えられる。

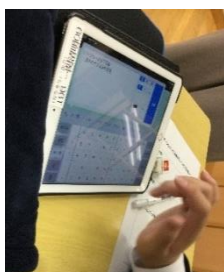
***指導助言(鎌田副校長)**

いい題材の授業だった。時期の設定が難しいのかもしれないが、飼育と並行して取り組むと、観察しながら図鑑の作成ができて良いのではないと思う。振り返って思い出すことが苦手だという話もあったので。
この先、この図鑑がどうなっていくのか、生き物が増えるのか、ブラッシュアップされていくのか、楽しみ。最後は是非製本して達成感につながれば良い。今回限りではなく活用してより良いものに仕上げたい。

研究授業 11月17日(金)4校時 自立活動 「ナビゲーションブックをつくろう」
授業研究会 12月12日(火)15:50～ 中学部学習室①

***使用したICT機器**

iPad(アプリ:「ロイロノート(簡易版)」)、surface、電子黒板



***本時おけるICT機器を使用した学習場面**

B個別学習
表現・制作
C協働学習
発表や話し合い
協働での意見整理



***学習場面でのICT活用の仕方**

- それぞれの生徒がロイロノートで作成した「ナビゲーションブック」をデータ提出してもらい、電子黒板で視覚的な共有を図る。
- お互いの「ナビゲーションブック」について意見交換する際に、ロイロノートに打ち込んだものを電子黒板で見せることで視覚的な共有を図る。
- 「ナビゲーションブック」のバージョンアップを図るため、ロイロノートを活用し繰り返し取り組む。

***本時の目標**

- 自分の特徴や障がいの特性について、適切な言葉で相手に伝えようといえることができる。
- お互いの「ナビゲーションブック」を見合い、良い点や改善点について話し合うことができる。
- 意見交換を通して、少しずつ自己理解を深めることができる。

***成果と課題(○成果▲課題*改善点)**

- お互いのナビゲーションブックの視覚的共有を行ったことで、それぞれのナビゲーションブックの色や内容の違いについて生徒自身が気付いた。
- 気づきについて言語化し、共有を図ったことで、色や内容の違いの理由まで話し合うことができた。

▲少人数で学習しているため、話し合う対象が限られており、思考の幅が広がりにくい。思考の幅を広げ、自己理解を促すようなICT活用の工夫が必要。

▲改善策について打ち込んだロイノートを全員で共有し、生徒個人のiPadで他の生徒のものも確認できるようにしたい。
→* 思考を共有するツールとして使えるようなアプリ「ジャムボード」はどうか

▲他の授業に生かそうと思った時に、写真などの画像共有ができると授業内容が広がりそうだが、ロイノートは難しそうだった。

*** 指導助言(指導教諭:木村智恵子先生)**

今回は、ICT機器の活用によって生徒の成長を感じた。

生の授業をみられるチャンスは生かしてほしい。

評価のための授業ではなく、評価して次の授業につなげていくことを意識してほしい。時間が経ってしまうと記憶が薄れていたり、評価に追われたりしてしまうので、すぐに振り返ることで次の授業につなげてほしい。

研究授業 11月24日(金)2校時 生活単元学習「思い出のアルバムを作ろう」
授業研究会 11月24日(金)15:50～ 中学部学習室①

*** 使用したICT機器**

iPad、(アプリ:「写真」)、電子黒板



*** 本時におけるICT機器を使用した学習場面**

A一斉指導
教師による教材の提示
B個別学習
個に応じる学習

A1 教員による教材の提示



B1 個に応じる学習



*** 学習場面でのICT活用の仕方**

- ・電子黒板に写真を投影し、視覚的共有を図る。
- ・個々のiPadに個人の写真をあらかじめ入れておき、主体的な活動につなげる。

*** 本時の目標**

- ・電子黒板に注目したり、タブレット端末を操作したりして、使いたい写真を選ぶことができる。
- ・選んだ写真のタイトルや作文を考えて、書き表すことができる。
- ・活動全体の見通しをもって、自分のペースで作業に取り組もうとしている。

*** 成果と課題(○成果▲課題*改善点)**

- 電子黒板に写真を投影したことで生徒の視線が上がった。
- 電子黒板の写真の注目してほしい部分を拡大したり、動画を映したりすることで教師と一緒に活動内容を思い出す様子がみられた。
- 個々のiPadに写真を入れたことで、主体的に写真を選ぶことができた。
- ▲選んだ写真を印刷するためにT1が教室を離れる時間があった。
→* 教室で印刷できるように家庭用プリンターがあると良いのではないかと。
* 自分で文字を打つことのできるアプリや、テキストをなぞって文字を書き、下書きを消せるアプリなどを活用してアルバム制作をiPadで完結させることもできる。そうすると途中で印刷する必要がなくなるのではないかと。

***指導助言(鎌田副校長)**

「協働的な学び」について、生徒の役割の工夫でもっと広がるのではないかと思う。ペンを配る係を作るなど役割を振ることで自然と協働的な学びが成り立つのではないか。全体で写真を見る場面にも役割を作ることできると思う。

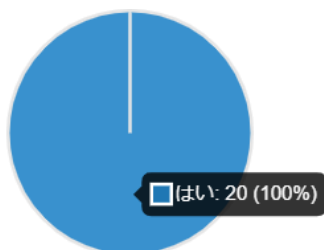
生徒の間にT2がいる場面があったが、T2が離れた時に生徒同士で関わる様子がみられた。T2の配置は別なところでも良かったかもしれない。

道具や材料が多いと感じたので、整理して構造化できるともっと良い。

(4) アンケート

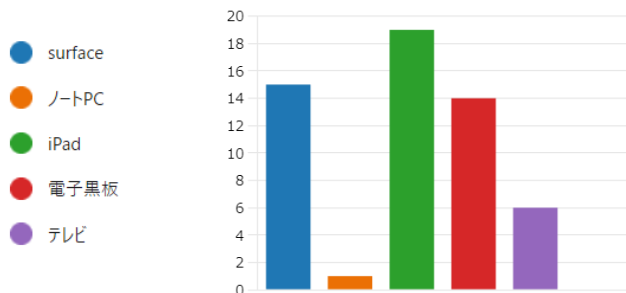
授業におけるICT機器活用について、中学部の先生方20名を対象にアンケートを取った。

①今年度、指導の中で、ICT機器を活用したか



今年度、授業でICT機器を活用した教員は100%となった。

②使用したICT機器

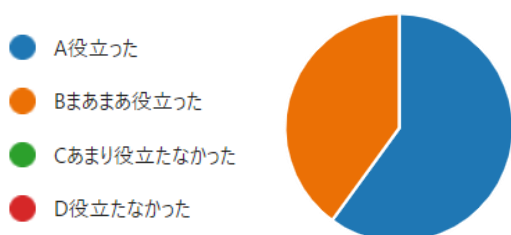


使用した ICT 機器は使用が多かった順に、iPad、surface、電子黒板となった。iPad や surface を電子黒板やテレビなどに接続して使用することが多かった。

③使用したアプリやサイト

アプリ	PowerPoint Excel Word Keynote Teams Garageband Goodnotes AdobeFresco メモ UDトーク 指伝話 SimpleMind YouTube ひらがなめっちゃわかるもん ドロップタップ ACダイアリー ロイロノート Safari カメラ 写真 すくすくプラス ライトボット
サイト	NHKforSchool Try it アルゴロジック 故事・ことわざ・慣用句辞典goo辞書 コトバンク クック パッド GoogleEarth プリントキッズ 子どもの習い事図鑑(すたペンドリル) クリスマスカード・年 賀状サイト 岩手県教委(いきるかかわるそなえる)

④ICT機器の活用は個々の学びの力を伸ばすことに役立ったか

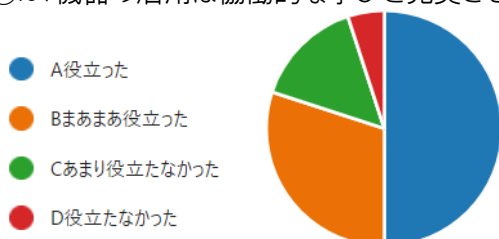


A、Bの回答を合わせると100%の教員が個々の学びの力を伸ばすことに役立ったと回答した。

活用場面としては教科学習、実技教科、合わせた指導と幅広く様々な授業で活用されている。

ICT機器を活用した理由としては、「生徒の興味関心を惹きやすい」「集団の注目を集めやすい」「視覚情報によって具体的にイメージを提示することができる」「記録が簡単」「一人一台使用が可能」「生徒たちの操作が容易」「生徒が操作を覚え、自主的に行動するようになった」「個々に応じた設定が容易」などが挙げられた。

⑤ICT機器の活用は協働的な学びを充実させることに役立ったか

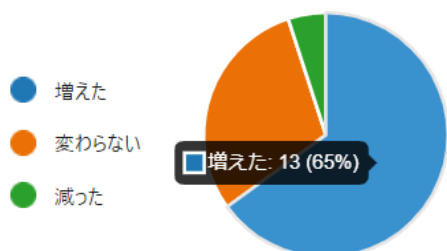


A、Bの回答を合わせると80%の教員が協働的な学びを充実させることに役立ったと回答した。

理由としては「使い方などを教え合ったり真似したりする様子がみられた」「生徒それぞれの考えを共有し学び合うことができた」「同じものを見たり聞いたりして感想を共有できた」などが挙げられた。

一方、C、Dの回答を合わせると20%の教員が役立たなかったと回答した。理由としては「もともと一人での学習であった」「個別的な学習で使用した」「生徒同士が関わり合うような使い方をしなかった」などの理由が挙げられた。少人数での学習場面が多かったことが主な理由であった。

⑥昨年度の事例研究や今年度の研究授業などを経て、ICT機器を活用する回数に変化はあったか

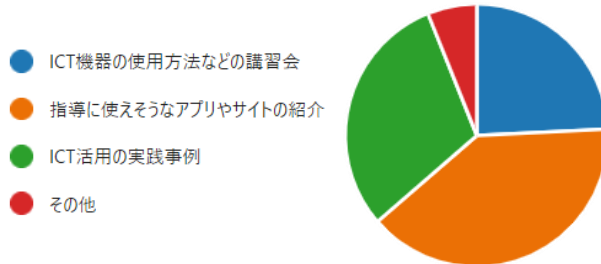


この研究を通して、ICT機器活用回数が増えたと回答した教員は65%となった。

理由としては、「ICT機器の使用に慣れてきた」「他の先生方の取り組みやアプリやサイトの紹介を見たことでやってみようと思った」「生徒の実態に即した活用法を知ることができたため」などが挙げられた。

変わらない、減った理由としては「生徒の実態把握に時間がかかり、ICT機器活用の十分な準備に至らなかった」「苦手意識がある」などが挙げられた。

⑦今後、指導においてICT機器を活用するために求めるもの



今後、ICT機器活用をさらに広げていくために求めるものとして「指導に使えるようなアプリやサイトの紹介」が1番多く、次いで「ICT活用の実践事例」「ICT機器の使用方法などの講習会」となった。それぞれ担当する教科や授業においてどのように活用されているのかを知りたいという声が多く挙がった。

(5) 学部研修会

「ICTを活用した授業実践について」

講師:長野県長野養護学校 教諭 青木高光氏

ドロップレットプロジェクト 代表

日時:令和5年12月26日(火)

場所:本校舎図書室

特別支援学校における ICT 活用について、ICT 機器活用以前の児童生徒の困難を読み取り理解する重要性からお話をいただいた。ICT 機器は AAC(補助代替コミュニケーション)を提供するための一番の近道であることや、ICT 機器を児童生徒が「主体的に活動するためのツール」として使うための具体的な方法など、事例を多く用いてお話いただいた。

< 中学部での授業実践に関して(青木先生より) >

聴覚重複学級「国語」生き物図鑑を作ろう
<ul style="list-style-type: none"> 好きなものを学習の取り掛かりとして使用することは、全ての学習活動に有効である。 特にひらがなの学習等では、児童生徒が興味のある語句から学習を始めることで主体的に学習に取り組むことができる。 ひらがなの学習は時間がかかるが、情報を自ら取り込むことができることが児童生徒の学ぶ意欲、QOL の高まりのためにも重要であるため、ぜひチャレンジしてほしい。
病肢通常・聴覚通常学級「自立活動」ナビゲーションブックを作ろう
<ul style="list-style-type: none"> ナビゲーションブックについて改善点だけでなく、良い点についても発表し合っていたところが良かった。 自分自身の良い点を認識し、それをどのような場で生かすことができるかについてもアドバイスをしてほしい。

知的通常・病肢重複学級「生活単元学習」思い出のアルバムを作ろう

- ・一人1台 iPad を使用し学習をしていた点良かった。一人1台の端末の積極的使用をこれからも進めていってほしい。
- ・ICT 機器を使用した学習活動は、生徒個人に合った表現方法のバリエーションを提供することができる。文章で表記できる生徒、写真で表現する生徒など、それぞれが表現したい方法をすぐに生かして活動できる。
- ・ICT 機器は個人の端末に学習内容を積み重ねることもでき、すぐに振り返ることができる。

4 実践のまとめ

(1) 成果

- 研究を通してICT機器の活用の仕方や実践事例を見ることができたため、教員のICT機器の活用が進んだ。
- ICT機器の活用は個々の学びの力を伸ばすことに有用であるとほとんどの教員が感じている。
- 生徒同士で使い方を教え合う様子がみられたり、考えを共有する場面を設定したりすることができた。
- 視覚的に提示することができるため、生徒たちが興味をもちやすかった。

(2) 課題

- 個別での教科学習も多く、ICT機器の活用における協働的な学びを充実させることに難しさを感じる場面もあった。
- 生徒の実態把握に時間がかかり、ICT機器を十分に活用することができなかったこともあった。
- ICT機器活用に苦手意識を持っている教員がICT機器活用を広げるための支援が必要であった。

(3) 終わりに

本研究では2年間、生徒の「個々の学び」「協働的な学び」の充実を目指してICT機器活用を進めてきた。アンケート結果から分かるように、今年度授業においてICT機器を使用した教員が100%となり、ICT活用に対する教員の意識が高まったと言える。また、限定的だったICT活用が様々な実践事例を活用したことにより、活用の幅が広がった。今後も実践事例の共有・検討を継続したい。

本研究によって、多様な実態の生徒たちがより深い学びを得るための手段としてICT活用が有効であり、個々の学びの力を伸ばすことができると実感した。教師が生徒個々の教育的ニーズや学習集団の実態を踏まえつつICTを積極的に活用し、子どもたち自身が主体的に学びを広げ、深めていけるような授業づくりを目指していきたい。

参考文献

- ・岩手県立総合教育センター（令和5年3月），岩手のICT活用実践事例集
- ・文部科学省（令和2年6月），教育の情報化に関する手引―追補版―「学校におけるICTを活用した学習場面」